

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 業務運営体制の確立

- (1) 迅速かつ的確な組織運営
- (2) 業務改善に取り組む風土づくり

中期目標	ア 理事長が強力なリーダーシップを発揮するとともに、各病院長への適切な権限移譲などを進め、迅速かつ的確な意思決定を行うこと。また、職員の経営参画意識やコスト意識の向上などにより、自律的かつ機動的な病院運営を行うこと。
	イ 積極的に業務改善に取り組むなど、効果的かつ効率的な業務運営体制を整備すること。

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価	
	年度計画		記号	評価理由・コメント等
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとするべき措置	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとするべき措置			
1 業務運営体制の確立(大項目) 中期目標、中期計画に掲げる目標、取組の達成を目指し、法人の運営を自律的、機動的に行うため、次のことに取り組みます。	1 業務運営体制の確立(大項目)			
(1) 迅速かつ的確な組織運営(小項目) 理事会や理事長、病院長等が出席する経営会議を中心に、適正かつ効果的な業務運営を図るとともに、病院内の委員会等を通じ、効率的な業務執行を行います。また、理事長がリーダーシップを発揮するとともに、病院長や病院内での適切な権限移譲等を進めることで、迅速かつ的確な意思決定を行います。	(1) 迅速かつ的確な組織運営(小項目) ・理事会や経営会議を中心とした迅速かつ的確な組織運営の推進 ・病院内の職務権限の見直し	<p>【理事会を中心とした組織体制の整備等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的に理事会を開催(4回)し、法人の経営方針等の検討、規程改正等について審議した。 ○ 毎月、各病院長が出席する経営会議において、法人の主要な課題等について協議、検討するとともに、理事長が毎月各病院をラウンドし、病院の現状把握及び現場での意見交換を行った。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。 3

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価	
	年度計画		記号	評価理由・コメント等
(2) 業務改善に取り組む風土づくり（小項目） 経営状況や業務運営上の課題等について、常に問題意識を持ち、その改善に取り組もうとする組織風土を醸成します。	(2) 業務改善に取り組む風土づくり（小項目） ・迅速かつ的確な事務処理が行えるよう新人事給与システムの運用、機能強化 ・経営管理課内への看護管理担当の新設 ・組織の再編の実施（組織改正、プロパー化の促進）	<p>【新人事給与システムの運用、機能強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 業務の効率化を目的として、平成30年1月に稼働した新人事給与システムについて、平成30年度においては、更なる有効利用を目的として、職員が加入している広島市職員共済組合及び広島市職員互助会のシステムとのデータ連携の調整、実施を行った。 <p>【看護管理担当の新設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4病院の看護の質の向上及び看護師の職場環境の改善等のため、法人の看護師の全体的な人事・労務、教育・研修及び看護業務の管理等を所管する看護管理担当を経営管理課内に設置した。 <p>【組織の再編の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安佐市民病院について、令和4年度の新病院への移転に向けて、より良い医療を提供するため、事務室の企画課及び医療情報室を再編し、診療情報の入力・集積・分析から、これに基づく施策の企画・立案・実施管理までを一元的に所掌する「医療情報・広報管理センター」を設置した。 ○ 病院経営、医療事務に係る専門知識を有する事務職員の確保を図るため、段階的な法人採用職員（プロパー）化を進めており、平成30年度は9人の新規採用を行った。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

2 人材の確保、育成

- (1) 病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応した人材の確保
- (2) 事務職員の専門性の向上
- (3) 研修の充実

中期目標	ア 多様な採用方法や雇用形態などにより、組織全体を活性化させるとともに、病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応できる人材の確保の在り方について検討すること。
	イ 職種に応じた研修制度の充実を図るとともに、職員の専門性やスキル、倫理観を向上させること。また、本市との人事交流等により、保健医療福祉分野に関して、幅広い知識・経験を有する職員の育成を図ること。

中期計画	平成30年度 年度計画	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価		
			記号	評価理由・コメント等	記号
2 人材の確保、育成（大項目） (1) 病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応した人材確保 収支への影響も踏まえながら、病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応した人材確保に努めます。	2 人材の確保、育成（大項目） (1) 病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応した人材の確保				
ア 診療体制の充実（小項目） 業務の量や質に応じた適切な人員配置を行い、診療・看護体制の充実や医療スタッフの負担軽減を図ります。	ア 診療体制の充実（小項目） ・診療体制を強化するための医療スタッフの再編 ・欠員が生じない職員の確保、配置（職員の臨時募集の実施等）	【医療スタッフの再編】 ○ 診療体制を強化するため、看護師を10名（広島市民病院8名、安佐市民病院2名）増員した。 【職員の確保、配置】 ○ 医療技術職については、退職等による欠員の解消を図るため、次のとおり随時採用試験を実施し、職員の確保を行った。 ・平成30年5月試験：言語聴覚士1名採用、医療ソーシャルワーカー1名採用 ・平成30年6月試験：介護士3名採用、生活支援員1名採用	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等
イ 多様な採用方法と雇用形態の活用（小項目） 新規採用や中途採用の実施、退職者の再任用の活用などにより、迅速、柔軟な人材確保を進めます。	イ 多様な採用方法と雇用形態の活用（小項目） ・経験者採用試験の実施など迅速・柔軟な人材確保 ・多様な勤務時間、勤務シフトの導入検討	<p>【迅速・柔軟な人材確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 法人化のメリットを生かし、通常の採用試験とは別に年度中途から勤務開始することを条件とした採用試験を、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー、介護士、生活支援員で実施した。 <p>【多様な勤務時間、勤務シフトの導入検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 業務の実態に対応するため、早出勤務、遅出勤務の開始時間を随時見直した。 ○ 子育てと仕事との両立を支援するため、育児休業から復帰する際、個別・丁寧に面談を行うとともに、育児短時間勤務制度の周知を図った。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。
ウ 医師確保の推進（小項目） 臨床研修プログラムや指導体制の充実、整備等に取り組み、専門医制度の動向にも適切に対応しながら、臨床研修医や後期研修医等の受入拡大、定着を図ります。	ウ 医師確保の推進（小項目） ・臨床研修病院としての研修プログラムの充実等による臨床研修医の確保	<p>【臨床研修病院としての研修プログラムの充実等による臨床研修医の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院、安佐市民病院では、臨床研修医師向け病院説明会に参加し研修プログラムをPRするとともに、指導医体制強化のため指導医資格取得講習会に医師を派遣し、それらの指導医を中心に研修プログラムの充実を図った。 ○ 「協力型臨床研修病院」である舟入市民病院では、基幹型臨床研修病院である広島大学病院臨床実習教育研修センターなどから、初期臨床研修医を受け入れた。 ○ 広島市民病院では、新専門医制度において内科、小児科、外科、産婦人科、麻酔科、病理診断科、救急科、精神科及び耳鼻咽喉科については研修基幹病院としてのプログラム申請を行うとともに、他の科に関しては岡山大学病院、広島大学病院等の連携施設として専攻医を受け入れるための申請を行った。 ○ 安佐市民病院では、新専門医制度において内科及び総合診療科については研修基幹病院としてのプログラム申請を行うとともに、他の科に関しては広島大学病院の連携施設として専攻医を受け入れるための申請を、平成29年度に引き続き行った。 ○ 4学会から教育研修施設の認定を受けているリハビリテーション病院では、各学会の研修プログラムを充実して受入体制を整えた。また、広島大学病院の協力型臨床研修指定病院となり、新専門医制度において広島大学病院の連携施設として専攻医を受け入れるための体制を整備した。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価						市長による評価																																																	
	年度計画	評価理由等			記号	評価理由・コメント等		記号																																																	
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院において、以下のとおり、平成 30 年度の臨床研修医を受け入れた。 <p>(参考) 臨床研修医受入状況 (単位:人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">平成 29 年度</th> <th colspan="3">平成 30 年度</th> </tr> <tr> <th>初期研修</th> <th>後期研修</th> <th>合計</th> <th>初期研修</th> <th>後期研修</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>29</td> <td>52</td> <td>81</td> <td>27</td> <td>57</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>42</td> <td>17</td> <td>27</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>赤穂市民病院</td> <td>14</td> <td>—</td> <td>14</td> <td>23</td> <td>—</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>63</td> <td>76</td> <td>139</td> <td>68</td> <td>86</td> <td>154</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成 29 年度				平成 30 年度			初期研修	後期研修	合計	初期研修	後期研修	合計	広島市民病院	29	52	81	27	57	84	安佐市民病院	19	23	42	17	27	44	赤穂市民病院	14	—	14	23	—	23	リハビリテーション病院	1	1	2	1	2	3	合計	63	76	139	68	86	154						
区分	平成 29 年度			平成 30 年度																																																					
	初期研修	後期研修	合計	初期研修	後期研修	合計																																																			
広島市民病院	29	52	81	27	57	84																																																			
安佐市民病院	19	23	42	17	27	44																																																			
赤穂市民病院	14	—	14	23	—	23																																																			
リハビリテーション病院	1	1	2	1	2	3																																																			
合計	63	76	139	68	86	154																																																			
		<ul style="list-style-type: none"> ・専門医制度に基づく専攻医の確保 <p>【専門医制度に基づく専攻医の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院においては、平成 30 年度には同病院基幹プログラムに 10 名、連携プログラムに 12 名、合計 22 名の専攻医を受け入れた。 ○ 安佐市民病院においては、平成 30 年度の同病院基幹プログラムへの応募は無かったが、広島大学の連携施設としての専攻医受入れは、後期研修医（新専門医制度プログラム）9 名であった。 																																																							
<u>工 看護師確保の推進（小項目）</u> 広島市立看護専門学校との連携等の在り方を検討するとともに、推薦試験の実施などにより、優れた看護師の確保に取り組みます。	<u>工 看護師確保の推進（小項目）</u> ・広島市立看護専門学校との連携等の在り方の検討 ・ガイダンス等へ積極的に参加するとともに、看護師養成機関への働きかけの強化など受験者増につながる取組の推進 ・推薦試験の実施 ・中途試験の実施	<p>【広島市立看護専門学校との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市立看護専門学校へ看護教員や科目講義の講師を派遣した。また、実習場所の提供を行った。 ○ 広島市立看護専門学校の卒業生を採用した（推薦 10 人、一般 34 人）。 <p>【ガイダンス等への積極的な参加等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 採用試験受験者の拡大を図るため、各病院において説明会を開催し、看護師採用情報誌主催の就職ガイダンスへ参加するとともに、看護師養成施設 4箇所を訪問し、連携強化、受験生の確保について協力を依頼した。 ○ 優秀な人材を早期に確保するため、平成 30 年 5 月に推薦試験を実施し、28 人採用した。 ○ 現場の実態に即した看護師の募集が可能となり、平成 30 年度は 7 月に第 1 回採用試験、9 月に第 2 回採用試験を実施した。なお、中途試験は実施しなかった。 ○ 合格後の採用辞退ができるだけ少なくするため、採用内定者を対象に、平成 30 年 10 月に合同懇談会を、同年 12 月から平成 31 年 3 月までの間に配属病院による懇談会を実施した。 	<p>3 年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。</p>						3																																																

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価					市長による評価	
	年度計画	評価理由等				記号	評価理由・コメント等	記号
		(平成30年度採用試験受験者数、合格者数、採用者数) (単位：人)						
		区分	受験者数	合格者数	採用者数	備考		
		推薦（5月）	30	28	28			
		一般（7月）	201	122	103	うち、前倒し採用7人		
		一般（9月）	62	37	31	うち、前倒し採用4人		
		合 計	293	187	162			
オ 看護師等の安定的な職場定着の推進（小項目） 看護師等の職場への定着を図るため、意欲的に働くことができる働きやすい職場環境づくりや指導体制の充実に取り組みます。	オ 看護師等の安定的な職場定着の推進（小項目） ・看護師の負担軽減を図る 看護補助者の配置 ・経営管理課内に看護管理担当を新設し、指導体制の充実 ・院内保育室の効果的な活用	<p>【看護師の負担軽減を図る看護補助者の配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 病棟の看護師の負担を軽減するため、平成27年12月から業務員による清潔・排泄・食事などの介助業務を開始し、平成30年度は広島市民病院で2人、安佐市民病院で1人の業務員を介助業務員に移行した。 ○ 病棟の看護師の負担を軽減するため、年末年始やゴールデンウィークにおいて介助業務員も出勤することとした。 ○ 舟入市民病院では、看護補助者を対象とした業務の質の向上を図るために研修会（延べ2回）を行った。看護補助者を確保することが困難なため、多様な雇用形態を取り入れ採用した。 <p>【看護管理担当の新設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4病院の看護の質の向上及び看護師の職場環境の改善等のため、法人の看護師の全体的な人事・労務、教育・研修及び看護業務の管理等を所管する看護管理担当を経営管理課内に設置した。 <p>【院内保育室の効果的な活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 院内保育室の夜間保育を拡充し、育児短時間勤務をしている看護師の夜勤導入に向けた検討を行った。 	3		年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3		

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																					
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																				
力 病院間の人事交流の推進 <u>(小項目)</u> 各病院が必要とする人材を市立病院全体で確保・育成するため、病院間の人事交流を推進します。	力 病院間の人事交流の推進 <u>(小項目)</u> ・人事交流の推進	<p>【人事交流の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 法人全体で職員を確保・育成するため、平成30年度は以下のようないわゆる異動を行った。 <p>(平成30年度病院間異動者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>異動者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>診療放射線技師</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>作業療法士</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>医療ソーシャルワーカー</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>歯科衛生士</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>臨床検査技師</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>42人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	異動者数	看護師	7人	薬剤師	8人	診療放射線技師	6人	理学療法士	9人	作業療法士	4人	医療ソーシャルワーカー	3人	歯科衛生士	1人	臨床検査技師	4人	計	42人	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分	異動者数																								
看護師	7人																								
薬剤師	8人																								
診療放射線技師	6人																								
理学療法士	9人																								
作業療法士	4人																								
医療ソーシャルワーカー	3人																								
歯科衛生士	1人																								
臨床検査技師	4人																								
計	42人																								
(2) 事務職員の専門性の向上 <u>(小項目)</u> 法人職員の計画的な採用と育成 広島市からの派遣職員を法人採用職員に段階的に切り替え、病院経営、医療事務に係る専門知識を有する職員の確保を図ります。また、事務職員の専門性を向上するため、広島市への職員派遣や研修の充実を図るとともに、スキルアップを支援する仕組みを検討します。	(2) 事務職員の専門性の向上 <u>(小項目)</u> 法人職員の計画的な採用と育成 <ul style="list-style-type: none"> ・法人採用職員の計画的な採用 ・医療事務に係る専門研修への参加や法人内の研修の実施などによる事務職員の専門性の向上 	<p>【法人採用職員の計画的な採用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成30年度は、法人採用事務職員を9人採用し、広島市からの派遣職員との切替えを進めた。平成26年度の法人化後における法人採用事務職員は、延べ43人となった。 <p>【事務職員の専門性の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事務職員に対しては、本部事務局が新規採用職員研修を実施したほか、各病院で医療クラークを対象とした実務研修、医事課職員を対象に診療報酬請求、DPC（診断群分類包括医療制度）の分析に関する研修などを実施し、専門性の向上を図った。 ○ 病院の外部環境や内部環境の変化及び問題点を把握し、改善のための戦略を立てる能力を習得させ、病院経営に有用な情報を取捨選択できる人材を育成することを目的として、全18回の「病院経営スペシャリスト育成カリキュラム」を実施した。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3																				

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(3) 研修の充実 ア 多様な研修機会の提供と参加しやすい環境づくり（小項目） 院内研修の充実、各種学会・研修会への参加の促進、専門資格取得のための研修など、多様な研修機会の提供と参加しやすい環境づくりに取り組みます。	(3) 研修の充実 ア 多様な研修機会の提供と参加しやすい環境づくり（小項目） ・院内研修の充実	<p>【院内研修の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、看護部がキャリア開発ラダーとして看護協会の推進する看護師のためのクリニカルラダーを導入し、ジェネラリストラダーを4段階から5段階の習熟度に改編するとともに、習熟度を6段階としたマネジメントラダーを追加した。 研修は、ラダーレベル別教育目的が達成できる内容に見直し、看護部個々のキャリア支援に取り組んだ。 看護部教育委員会を発足し師長管理研修を計画的に実施した。 全職員を対象として、医療安全、感染対策、メンタルヘルス及び看護必要度に関する研修を実施した。 チーム医療の人材育成を目的に、R S T、N S T、摂食嚥下口腔ケア、緩和ケア、認知症ケア、排尿ケアの院内認定教育課程を継続して実施している。 ○ 安佐市民病院では、既存のクリニカルラダーをキャリアラダーとして更新し、年間計画に沿って研修を実施した。また、管理者の育成を目指した「O J T研修」を実施し、O J Tステップ1を15人、O J Tステップ2を9人修了した。また、全職員を対象として、感染対策、医療安全、接遇、倫理の4研修を行うとともに、事務職以外の職種を対象として、褥瘡対策、認知症、排尿ケアの研修を行った。 ○ 舟入市民病院では、職員の健康管理のため、全職員を対象に「健康講座」を実施した。 また、院内研修委員会が中心となり、医療安全、感染対策、接遇、N S T、虐待防止等に関する研修会を計画的に実施した。 看護科では、看護協会が推奨しているクリニカルラダーを4段階から5段階の習熟度に改編し、目標が達成できるよう支援を行った。さらに、マネジメントラダーを導入し、主任を対象とした管理研修を3回行った。院内認定看護師制度（小児救急看護分野、摂食・嚥下障害看護分野、緩和ケア分野）を開始し、5回シリーズの研修を延べ15回行った。 ○ リハビリテーション病院では、教育研修委員会で院内研修の年間計画や研修テーマや内容の検討を行い、研修内容の充実を図っている。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・院外の学会・研修会等への参加機会の確保 	<p>【院外の学会・研修会等への参加機会の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、国内の学会や研修会等への参加を、法人負担で延べ789件認めた。 ○ 安佐市民病院では、学会・研修会等への参加を、法人負担で149回（平成29年度125回）認めた。また、学会・研修会の発表件数は40件（平成29年度26件）、誌上発表は13件（平成29年度5件）であった。 ○ 舟入市民病院では、院外の学会・研修会については、予算及び職員学会等出張取扱要領の範囲内で所属ごとに参加者を選定している。 ○ リハビリテーション病院では、院外の学会・研修会については、予算及び職員学会等出張取扱要領の範囲内で所属ごとに参加者を選定している。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内の合同研修会の開催 	<p>【合同研修会の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 法人の新規採用者全員に対して、職場への円滑な適応を図るため、職員倫理・人権問題・メンタルヘルスなど、社会人として必要な心構えについて研修を行った。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・専門資格取得のための教育研修参加の支援 	<p>【専門資格取得のための教育研修参加の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、資格取得を促進するため、専門教育を受けるための費用を法人で負担し教育参加の支援を行った。その結果、3人の看護師が新たに認定看護師（小児専門、集中ケア、栄養嚥下）の資格を取得した。 ○ 安佐市民病院では、1人が認定看護師の研修を修了した。また、1人ががん専門看護師研修を修了した。 ○ 舟入市民病院では、看護師1人が皮膚排泄ケア認定看護師の資格を取得した。 ○ リハビリテーション病院では、専門資格取得のための教育研修参加については、必要な費用等を法人が負担し認定看護師等の資格取得を促進している。 			
イ 新規採用看護師に対する指導・研修の充実（小項目） 専任の教育担当看護師による新規採用の看護師への指導や研修の充実を図ります。	イ 新規採用看護師等に対する指導・研修の充実（小項目） ・教育担当看護師による指導の実施	<p>【教育担当看護師による指導の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、新人教育体制、5マイクロスキルや叱り方、シミュレーション教育をテーマにした教育担当者研修を4回開催した。また、部署のサポート体制作りとキャリア支援室との連携を密にした。さらに、新人教育体制、アンガーマネジメント、アサーション、タイプ別コミュニケーションをテーマにしたプリセプター研修を5回実施し、課題への対応策を検討した。教育担当 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>・研修プログラムの充実</p> <p>・広島市の医療政策課への職員派遣</p>	<p>者研修、プリセプター研修共に新人のサポートに成果が見られた。新人教育は、117時間の集合研修を実施し、新たに認知症患者の看護を取り入れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安佐市民病院では、新規採用看護師の個人育成マップを再検討し、各部署の担当者と教育担当者が、個々の成長に合わせた支援体制を図った。 ○ 舟入市民病院では1名体制（専任）で、教育担当看護師が新規採用看護師等の教育担当として指導、研修を行った。 ○ リハビリテーション病院では、新人看護職員教育チェックリストを用いて指導を行った。実施指導者が主にOJTを通して技術の習得をサポートし、教育担当者は、実地指導者の相談役となったり、実際に指導を行ったりして新人教育に関わった。 <p>【研修プログラムの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、臨床研修として、部署・部門・クリティカル研修を84時間実施した。ジェネラリストラダーの取得率は94%であった。 ○ 安佐市民病院では、キャリアラダーを構築し、新たなラダー別研修を実施した。平成30年度のラダー認定者は、総計で122人であった。 ○ 舟入市民病院では、新人教育年間スケジュールバスを作成し、各々の看護技術習得時期と習得状況を分かりやすくし、指導を行った。 ○ リハビリテーション病院では、緊急時の対応など、習熟度の低い技術については、プログラムを追加し指導を行った。 <p>【広島市の医療政策課への職員派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市健康福祉局保健部医療政策課へ事務職員1名を派遣し、職務能力の向上を図った。 			

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

3 弾力的な予算の執行、組織の見直し

中期目標	地方独立行政法人制度の利点を十分に生かし、弾力的な予算執行等を進めるとともに、医療需要や病院の実態等に応じた組織や人員配置とすること。
------	---

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
3 弾力的な予算の執行、組織の見直し（大項目） 地方独立行政法人制度の利点を十分に生かし、引き続き、病院実態に即した弾力的な予算執行、組織や人員配置の見直しを行い、効果的かつ効率的な業務運営を行います。	3 弾力的な予算の執行、組織の見直し（大項目）				
	<ul style="list-style-type: none"> ・病院実態に即した弾力的な予算の執行 ・人員配置の見直しによる効果的かつ効率的な業務運営の実施 	<p>【弾力的な予算執行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成31年度予算編成において、各病院長の意見を反映させて、医療機器整備計画を病院の実態や必要性に応じて見直した。 <p>【人員配置の見直しによる効果的かつ効率的な業務運営の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安佐市民病院において、診療情報の高度利活用を推進するための「医療情報・広報管理センター」を、医療サービスの質を継続的に向上するための「TQMセンター」を、診療体制の充実を図るための「診療統括部」及び「中央検査・治療センター」を設置するなど、組織の再編を実施した。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり

- (1) 病院の実態に即した人事・給与制度の構築
- (2) 適切な役割分担と業務の負担軽減
- (3) ワーク・ライフ・バランスの推進
- (4) メンタルヘルス対策の実施

中期目標	職員のインセンティブの向上を図るとともに、法人の経営状況を踏まえつつ、職員の能力や業績を的確に反映できる人事・給与制度とすること。また、働き方改革の実現や子育て支援の充実など、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組むことで、職員が誇りや働きがいを持てる職場環境を整備すること。		
------	--	--	--

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり（大項目）	4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり（大項目）				
(1) 病院の実態に即した人事・給与制度の構築（小項目） 病院職員が意欲的に働くことができるよう、法人の経営状況を踏まえつつ、職員の勤務実態や能力、業績等が適正に評価される人事・給与制度を構築します。	(1) 病院の実態に即した人事・給与制度の構築（小項目） ・勤務実態に応じた手当の見直し等の検討	<p>【勤務実態に応じた手当の新設、見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 給与制度について、広島市人事委員会の勧告を踏まえ、広島市と同様に給与制度の改定を行った。 ○ 手当の新設及び見直しについて、勤務実態を考慮し引き続き慎重に検討を進めた。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
(2) 適切な役割分担と業務の負担軽減（小項目） 医療クラークや看護補助者等、医療スタッフが行う業務を補助する職員の確保や民間事業者の活用などにより、医療スタッフの負担軽減を図ります。	(2) 適切な役割分担と業務の負担軽減（小項目） ・医療スタッフが行う業務を補助する職員の配置	<p>【医療スタッフが行う業務を補助する職員の配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、看護師の業務負担軽減を図るために、介助業務員を育成し、看護補助業務の質の向上を図るとともに、介助業務員の人数配置が整っている部署においては、早出の7時30分から遅出業務終了の21時までのシフトを組むことにより、看護師の業務を補助することができた。 ○ 安佐市民病院では、看護補助者に対する定期的な研修を実施するとともに、期間限定の6時間業務員の雇用及び部署間の応援体制で対応し、看護師の業務負担軽減を図った。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	・人材派遣を活用し、欠員が生じている部署の負担軽減	【人材派遣を活用し、欠員が生じている部署の負担軽減】 <ul style="list-style-type: none">○ 広島市民病院では、医事課外来係において、人材派遣会社より5~9人/月の人材派遣を受け入れた。○ 安佐市民病院では、人材派遣会社から説明を聞き、検討をしている。○ リハビリテーション病院では、自立訓練施設における夜勤専従者について人材派遣の活用の検討をしている。			
(3) ワーク・ライフ・バランスの推進（小項目）	(3) ワーク・ライフ・バランスの推進				
・ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、院内保育の充実や長時間労働の是正に向けた取組などを推進し、職員が働きやすい職場環境を整備します。	ア 子育てと仕事との両立の支援（小項目） ・育児短時間勤務制度の維持 ・院内保育等の拡充	【育児短時間勤務制度の維持】 <ul style="list-style-type: none">○ 子育てと仕事との両立を支援するため、現場や育児短時間勤務職員からの意見を聴きながら、職員にとって働きやすい勤務形態を導入している。また、育児休業から復帰する際には、所属長等が個別に面談を行い、子育て支援に係る制度の周知を図った。 【院内保育等の拡充】 <ul style="list-style-type: none">○ 平成30年度から、院内保育を利用している乳幼児の兄弟等についても夜間保育を利用できるよう対象者を拡大した。また、夜間保育の開設日数を週2日に増やした。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
イ 長時間労働の是正（小項目） ・長時間労働の是正のための取組強化		【時間外勤務縮減のための取組強化】 <ul style="list-style-type: none">○ 広島市民病院では次の取組を行っている。<ul style="list-style-type: none">・時間外につながりやすい夕方以降の業務に対応するため、遅出出勤を導入した。・土日祝日の患者説明は行わない。・土日祝日の病棟業務は当番医が行う。・後期研修医の救急夜勤時間の見直し（夜間時間外時間の短縮化）・毎月の時間外実績を各所属長へ送付し、長時間労働の職員への指導配慮○ 安佐市民病院では、遅出出勤を導入したこと、土日祝日において患者説明を行わないこと及び病棟業務を当番医が行うことにより、時間外勤務縮減を取り組んだ。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	・職員への意識啓発の取組	<p>【職員への意識啓発の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月、全職員の時間外勤務時間数をチェックし、基準を超える勤務時間の職員には産業医による面談を受けさせることで、長時間労働が心身に与える悪影響や時間外勤務削減の必要性についての意識啓発、メンタルサポートに努めた。 ○ 安佐市民病院では、経営会議や部長会等の会議で病院長から削減の取組のことを会議のたびに伝えており、チーム医療体制を整え患者に対応することで職員の長時間労働の削減を図っている。 			
(4) メンタルヘルス対策の実施 <u>(小項目)</u> 職員の心の健康対策として、過重労働による健康障害の防止のための教育・研修の実施、相談体制の整備、職場復帰支援等を推進します。	(4) メンタルヘルス対策の実施 <u>(小項目)</u> ・職員への意識啓発の取組 ・相談体制の整備 ・職場復帰の支援等 ・ストレスチェックの実施	<p>【意識啓発の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院においてメンタルヘルス部会等を開催し、メンタルヘルスに関する様々な問題点について議論し、職員間での意識啓発を図った。 ○ 全職員を対象に保健師によるメンタルヘルス研修会を開催した。 <p>【相談体制の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職員のストレスチェックを行い、職員のメンタル状況を把握するとともに、相談窓口の周知を図り、産業医、保健師等が必要な相談及び助言を行った。 <p>【職場復帰の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 長期病休者等の職場復帰に当たっては、復帰が円滑に行えるよう、職場復帰訓練を行うとともに、産業医等による面接を行うなど、再度の病休入りの防止に努めた。 <p>【ストレスチェックの実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本部事務局では、平成 30 年 11 月に全職員を対象にストレスチェックを実施した。ストレスチェックの結果がハイリスクの職員に対しては、保健師が個別に相談窓口を案内するとともに、希望者には面談・電話・メールなどによる対応を行う体制としていたが、該当者はいなかった。 ○ 広島市民病院では、年 2 回（平成 30 年 6 月・11 月）全職員へストレスチェックを実施（実施率：90～94%）。ハイリスク者には、保健師より相談窓口を案内した。ハイリスク部署には所属長に連絡し、状況把握するとともに、必要に応じて介入した。また、新人看護師については毎月実施し、キャリア支援室と連携をとりながら、ハイリスク者や部署に早期対応できるよう努め 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 安佐市民病院では、年1回、時期を決めてストレスチェックを実施した。 <input type="radio"/> 舟入市民病院では、年1回、時期を決めてストレスチェックを実施した。 <input type="radio"/> リハビリテーション病院では、ストレスチェックを年2回実施し、安全衛生委員会メンタルヘルス部会で結果の報告及び総合的な対策の検討を行っている。 			

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

5 外部評価等の活用

中期目標	会計監査人による監査、患者等利用者や本市評価委員会の意見を踏まえ、法人の業務運営の改善を図ること。
------	---

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
5 外部評価等の活用（大項目）	5 外部評価等の活用（大項目）				
会計監査人による監査等の結果を踏まえ、対応を速やかに検討し、必要な業務運営の改善を取り組みます。また、病院運営の透明性を高めるため、その結果や対応について、ホームページ等を活用して積極的に公開します。	・監査等の結果を踏まえた業務運営の改善及びその公表	<p>【監査等の結果を踏まえた業務運営の改善及びその公表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 監事監査規程に基づき、監事による4病院の実地監査及び書類監査を行った（平成31年1月～平成31年3月）。 ○ 会計監査人による、病院の医薬品等の棚卸の立会い、財務諸表等の決算に係る審査等を行った。 ○ 会計規程に基づき、本部事務局職員が、毎月、本部事務局及び各病院において、現金残高の確認等の内部監査（自主監査）を実施した。 ○ 会計監査、監事監査の結果は、速やかに理事長及び理事会へ報告した上で、広島市へ報告するとともに公表した。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

経営の安定化の推進

- (1) 中期目標期間中の経常収支の黒字化
- (2) 診療科別・部門別の収支状況の把握と迅速な対応
- (3) 経費の削減
- (4) 収入の確保

中期目標	ア 法人の経営努力だけでは維持することが困難な公共性の高い医療を提供するために必要となる経費（北館の病院の整備に係る経費を含む。）については、引き続き本市が負担するが、中期目標期間中の経常収支の黒字化を図ること。
	イ 適正な病床管理による病床利用率の向上、診療報酬改定への的確な対応、適切な未収金対策に引き続き取り組むことなど、安定的な収入の確保を図るとともに、各病院の部門ごとの詳細な収支状況の把握・分析、多様な契約手法の導入による超過コストの縮減など、経費の削減に取り組むことにより、地方独立行政法人制度の利点を生かした効率的な病院運営を行うこと。

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価																				
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																		
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 経営の安定化の推進（大項目）	第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 経営の安定化の推進（大項目）																						
(1) 中期目標期間中の経常収支の黒字化（小項目） 公共性の高い医療を提供するために必要な広島市からの運営費負担金の交付の下、中期目標期間中の経常収支の黒字化を図ります。	(1) 中期目標期間中の経常収支の黒字化（小項目） ・経営状況・分析を踏まえた病院運営の実施	<p>【経営状況・分析を踏まえた病院運営の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月開催する経営会議において、各病院の経営指標の現状と課題及びその対応策を報告し、意見交換を行って健全な病院運営を行うよう努めた。 ○ その結果、平成30年度は、手術件数や化学療法の増による入院・外来収入の増等により収支が大きく改善され、経常収支比率は、目標値99.3%を上回る100.7%となり、当期純利益も年度計画の4.2億円の赤字を大きく上回る4.1億円の黒字となった。 	4	経常収支の黒字化が図られるとともに、医業収支比率が4病院とも目標を達成しており、年度計画を上回っているため、「4」と評価した。	4																		
【目標値】 (単位：%) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>令和3年度 目標値</th> </tr> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>98.4</td> <td>101.1</td> </tr> </table> ※経常収支比率 = (経常収益 / 経常費用) × 100	区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値	経常収支比率	98.4	101.1	【目標値】 (単位：%) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>平成30年度 目標値</th> </tr> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>99.3</td> </tr> </table> ※経常収支比率 = (経常収益 / 経常費用) × 100	区分	平成30年度 目標値	経常収支比率	99.3	【実績】 (単位：%) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>平成30年度 実績</th> </tr> <tr> <td>経常収支比率</td> <td>98.4</td> <td>99.6</td> <td>100.7</td> </tr> </table> ※経常収支比率 = (経常収益 / 経常費用) × 100	区分	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	経常収支比率	98.4	99.6	100.7			
区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値																					
経常収支比率	98.4	101.1																					
区分	平成30年度 目標値																						
経常収支比率	99.3																						
区分	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績																				
経常収支比率	98.4	99.6	100.7																				

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																																				
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																																			
【目標値】病院ごとの経常収支比率 (単位：%)	【目標値】病院ごとの経常収支比率 (単位：%)	【実績】病院ごとの経常収支比率 (単位：%)																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>令和3年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>98.4</td> <td>100.4</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>97.8</td> <td>102.8</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>103.5</td> <td>103.3</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>93.4</td> <td>94.2</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値	広島市民病院	98.4	100.4	安佐市民病院	97.8	102.8	舟入市民病院	103.5	103.3	リハビリテーション病院	93.4	94.2	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成30年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>99.2</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>100.2</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>93.4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成30年度 目標値	広島市民病院	99.2	安佐市民病院	100.2	舟入市民病院	100.0	リハビリテーション病院	93.4	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成30年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>100.9</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>102.5</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>105.3</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>98.8</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成30年度 実績	広島市民病院	100.9	安佐市民病院	102.5	舟入市民病院	105.3	リハビリテーション病院	98.8			
区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値																																						
広島市民病院	98.4	100.4																																						
安佐市民病院	97.8	102.8																																						
舟入市民病院	103.5	103.3																																						
リハビリテーション病院	93.4	94.2																																						
区分	平成30年度 目標値																																							
広島市民病院	99.2																																							
安佐市民病院	100.2																																							
舟入市民病院	100.0																																							
リハビリテーション病院	93.4																																							
区分	平成30年度 実績																																							
広島市民病院	100.9																																							
安佐市民病院	102.5																																							
舟入市民病院	105.3																																							
リハビリテーション病院	98.8																																							
【目標値】病院ごとの医業収支比率 (単位：%)	【目標値】病院ごとの医業収支比率 (単位：%)	【実績】病院ごとの医業収支比率 (単位：%)																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>令和3年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>93.3</td> <td>95.4</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>93.2</td> <td>98.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>72.4</td> <td>75.5</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>76.7</td> <td>74.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>※医業収支比率=（医業収益／医業費用）×100</p>	区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値	広島市民病院	93.3	95.4	安佐市民病院	93.2	98.0	舟入市民病院	72.4	75.5	リハビリテーション病院	76.7	74.7	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成30年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>93.9</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>96.3</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>71.8</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>74.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>※医業収支比率=（医業収益／医業費用）×100</p>	区分	平成30年度 目標値	広島市民病院	93.9	安佐市民病院	96.3	舟入市民病院	71.8	リハビリテーション病院	74.9	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成30年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>95.2</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>97.8</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>74.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>77.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※医業収支比率=（医業収益／医業費用）×100</p>	区分	平成30年度 実績	広島市民病院	95.2	安佐市民病院	97.8	舟入市民病院	74.0	リハビリテーション病院	77.4			
区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値																																						
広島市民病院	93.3	95.4																																						
安佐市民病院	93.2	98.0																																						
舟入市民病院	72.4	75.5																																						
リハビリテーション病院	76.7	74.7																																						
区分	平成30年度 目標値																																							
広島市民病院	93.9																																							
安佐市民病院	96.3																																							
舟入市民病院	71.8																																							
リハビリテーション病院	74.9																																							
区分	平成30年度 実績																																							
広島市民病院	95.2																																							
安佐市民病院	97.8																																							
舟入市民病院	74.0																																							
リハビリテーション病院	77.4																																							

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(2) 診療科別・部門別の収支状況の把握と迅速な対応（小項目） 各病院の診療科別、部門別の収支状況を、常時把握、分析し、迅速に対応策を検討、実施します。	(2) 診療科別・部門別の収支状況の把握と迅速な対応（小項目） 各病院の診療科別、部門別収支状況を把握・分析し、迅速な対応策を検討・実施	<p>【診療科別・部門別の収支状況の把握と迅速な対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院においては、平成30年度において新たに取得可能な施設基準を届出し、総額約7,100万円の增收を得た。 <p>「経営改善委員会」において、毎月の経営状況や新たに取得した施設基準による収益状況等の報告を行うとともに、収益改善に向けた協議を行った。</p> <p>地域における広島市民病院の診療実績を把握するため、厚生労働省が公表した平成28年度「DPC導入の影響評価に関する調査結果及び評価」最終報告概要に基づき、全国、中四国、広島県内及び広島医療圏内におけるDPC請求病院との各種比較（症例件数、在院日数、再入院率、手術等治療実績、救急搬送件数及び転帰状況等）を行い、冊子に製本後、院内に配布するとともに、データをPDFに加工し随時閲覧可能とした。</p> <p>病院経営コンサルトの協力を得て、診療科別の収支状況を把握・分析し、それをもとに病院長による各科主任部長ヒヤリングを行い、術前検査の外来化、バスの見直し等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安佐市民病院では、診療科毎の原価計算を基に、各部門の収支状況等を各部門に提示するなど、収支改善に向けた準備・検討を行った。また、医療経営コンサルタントの協力と助言を得て、院内11の部署と個別ミーティングを実施した。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
(3) 経費の削減（小項目） 各病院で使用する医薬品や診療材料の品目の共通化を進め、共同購入の拡大等に取り組みます。 診療経費の節減や患者負担の軽減の観点から、後発医薬品の採用拡大に取り組みます。	(3) 経費の削減（小項目） ・長期・複合契約の推進 ・価格交渉落札方式による調達推進 ・同種の医療機器の共同購入及び医薬品、診療材料の品目の共通化の推進	<p>【長期・複合契約の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ X線一般撮影システム等の購入及び保守点検業務について、長期・複合契約により一括発注し、調達コスト及び管理コストの削減を図った。 <p>【価格交渉落札方式による調達推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 予算額2,000万円以上の医療機器12件について、価格交渉落札方式により調達を行い、うち9件について入札参加者が価格交渉に応じた結果、465万9,000円の購入価格低減が図られた。 <p>【同種の医療機器の共同購入及び医薬品、診療材料の品目の共通化の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 複数病院における医療機器の共同購入については、病院事務室との意見交換などを実施したが、購入時期を合わせることができず、実現できなかった。 <p>また、医薬品、診療材料の共通化については、ある程度の統一感を持って実施できた。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。 引き続き、医療機器の共同購入に取り組むとともに、後発医薬品の採用拡大を図ること。	3

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																						
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																					
	<ul style="list-style-type: none"> ・契約課と薬剤部共同による医薬品の価格交渉の実施 ・後発医薬品の採用拡大 <p>【目標値】後発医薬品数量シェア (単位: %)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成 28 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>74.1</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>76.9</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>井入市民病院</td> <td>—</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 数量シェア = (後発医薬品の数量 / (後発医薬品のある先発医薬品の数量 + 後発医薬品の数量)) × 100</p> <p>※2 平成 28 年度実績 = 平成 27 年 10 月から平成 28 年 9 までの実績</p> <p>※3 令和 3 年度目標値は厚生労働省が定めた数量シェアの目標値</p>	区分	平成 28 年度 実績	令和 3 年度 目標値	広島市民病院	74.1	80.0	安佐市民病院	76.9	80.0	井入市民病院	—	80.0	<p>【契約課と薬剤部共同による医薬品の価格交渉の実施】</p> <p>○ 契約課と薬剤部共同による価格交渉を上半期と下半期に分けて実施した結果、12.8%の値引率となり、平成 30 年度当初に薬価改定の影響を考慮して算出した推計値引率 11.8% と比較して 1 ポイントのアップとなった。 なお、平成 29 年度の値引率 14.1% と比較して 1.3 ポイントのダウンとなつた。</p> <p>【後発医薬品の採用拡大】</p> <p>○ 先発医薬品から後発医薬品への切替えを推進したことから、広島市民病院を除く 3 病院において目標値を達成した。</p> <p>【実績】後発医薬品数量シェア (3 月末実績) (単位: %)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成 30 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>76.3</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>87.7</td> </tr> <tr> <td>井入市民病院</td> <td>76.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※数量シェア = (後発医薬品の数量 / (後発医薬品のある先発医薬品の数量 + 後発医薬品の数量)) × 100</p>	区分	平成 30 年度 実績	広島市民病院	76.3	安佐市民病院	87.7	井入市民病院	76.6				
区分	平成 28 年度 実績	令和 3 年度 目標値																								
広島市民病院	74.1	80.0																								
安佐市民病院	76.9	80.0																								
井入市民病院	—	80.0																								
区分	平成 30 年度 実績																									
広島市民病院	76.3																									
安佐市民病院	87.7																									
井入市民病院	76.6																									

中期計画		平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価				市長による評価																		
		年度計画		評価理由等			記号	評価理由・コメント等																	
【目標値】後発医薬品採用品目比率 (単位: %)	【目標値】後発医薬品採用品目比率 (単位: %)	【実績】後発医薬品採用品目比率 (各年度 3月末実績) (単位: %)																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成 28 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リハビリテーション病院</td><td>27.2</td><td>29.0</td></tr> </tbody> </table> <p>※1 採用品目比率 = (後発医薬品目数 / 医薬品目数総数) × 100</p> <p>※2 平成 28 年度実績 = 平成 29 年 3 月末</p> <p>・医療の質の向上、医療安全の確保、患者サービスの向上などに十分に配慮した上で、職員の適正配置、長時間労働の是正などに努め、適正な人件費の維持に努めます。</p>	区分	平成 28 年度 実績	令和 3 年度 目標値	リハビリテーション病院	27.2	29.0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成 30 年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リハビリテーション病院</td><td>28.0</td></tr> </tbody> </table> <p>※採用品目比率 = (後発医薬品目数 / 医薬品目数総数) × 100</p> <p>・職員の適正配置、長時間労働の是正等による適正な人件費の維持</p>	区分	平成 30 年度 目標値	リハビリテーション病院	28.0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成 28 年度 実績</th> <th>平成 29 年度 実績</th> <th>平成 30 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リハビリテーション病院</td><td>27.2</td><td>27.0</td><td>29.3</td></tr> </tbody> </table> <p>※採用品目比率 = (後発医薬品目数 / 医薬品目数総数) × 100</p>	区分	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績	リハビリテーション病院	27.2	27.0	29.3					
区分	平成 28 年度 実績	令和 3 年度 目標値																							
リハビリテーション病院	27.2	29.0																							
区分	平成 30 年度 目標値																								
リハビリテーション病院	28.0																								
区分	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績																						
リハビリテーション病院	27.2	27.0	29.3																						
		【適正な人件費の維持】																							
		○ 職員の適正配置等により、適正な人件費の維持に努めた。																							
		○ 毎月、全職員の時間外勤務時間数をチェックし、基準を超える勤務時間の職員へは産業医による面談を受けさせることで、長時間労働が心身に与える悪影響や時間外勤務削減の必要性についての意識啓発、メンタルサポートに努めた。																							
		○ 広島市民病院では、長時間労働の是正のために、次の取組を行っている。 ・時間外につながりやすい夕方以降の業務に対応するため、遅出出勤を導入した。 ・土日祝日の患者説明は行わない。 ・土日祝日の病棟業務は当番医が行う。 ・後期研修医の救急夜勤時間の見直し（夜間時間外時間の短縮化） ・毎月の時間外実績を各所属長へ送付し、長時間労働の職員への指導配慮																							
		○ 安佐市民病院では、遅出出勤を導入したこと、土日祝日において患者説明を行わないこと及び病棟業務を当番医が行うことにより、時間外勤務縮減に取り組んだ。																							
		○ 舟入市民病院では、業務分担の見直しを行うとともに、臨時職員の活用等を行った。																							
		○ リハビリテーション病院では、人事異動によりベテラン職員の代わりに新人職員が配属された部署や初めての業務に携わる職員を多く抱える部署など、一部で時間外勤務が増大している部署があることから、適切な業務分担や人員配置などにより職員の負担軽減に努めるとともに、新人職員の人材育成にも重点を置き、将来的に時間外勤務の削減に結びつくような取組を進めた。																							

中期計画		平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価				市長による評価	
		年度計画		評価理由等			記号	評価理由・コメント等
【目標値】 〔単位：%〕	〔目標値〕 〔単位：%〕	〔目標値〕 〔単位：%〕	〔実績〕 〔単位：%〕	〔実績〕 〔単位：%〕	〔実績〕 〔単位：%〕	〔実績〕 〔単位：%〕		
区分 給与費対医業収益比率	平成28年度 実績 53.7	令和3年度 目標値 53.5	区分 給与費対医業収益比率	平成30年度 目標値 53.7	区分 給与費対医業収益比率	平成28年度 実績 53.7	平成29年度 実績 53.4	平成30年度 実績 52.2
※1 給与費対医業収益比率＝ (給与費／医業収益) × 100	※1 給与費対医業収益比率＝ (給与費／医業収益) × 100	※2 給与費は、退職手当を除く。	※2 給与費は、退職手当を除く。	※給与費対医業収益比率＝(給与費／医業収益) × 100	※給与費は、医業費用の給与費から退職給付費用を除いた額			
(4) 収入の確保（小項目） ・今後の疾病動向や診療報酬改定の情報収集、分析を行い、それらに迅速かつ的確に対応した病院経営を行います。 ・効果的な経営戦略を企画立案し、経営改善に取り組めるよう必要に応じて医療経営コンサルタント等を活用します。 ・地域の医療機関との役割分担と連携の下、適正な在院日数や病床管理による病床利用率の向上に取り組み、診療報酬収入の確保に努めます。	(4) 収入の確保（小項目） ・疾病動向の変化や診療報酬改定への対応 ・医療経営コンサルタント等を活用した、適正な在院日数や病床管理による診療報酬収入の確保	【疾病動向の変化や診療報酬改定への対応】 ○ 診療報酬改定に関する調査・分析・検証を行うとともに、施設基準取得のため、職員配置等の検討や必要な研修へ医師等を派遣するなど、収入確保に向けた取組を進めた。 【医療経営コンサルタント等を活用した診療報酬収入の確保】 ○ 広島市民病院では、病院経営コンサルトの協力を得て、診療科別収益状況、収益の月次推移、DPC、入院期間ⅠⅡによる在院日数の適正化及び定義副傷病名について分析し、その結果、病院長及び事務長による9科、延べ12回のヒヤリングを行い、術前検査の外来化やバスの見直し等を実施した。 ○ 安佐市民病院では、医療経営コンサルタントの協力と助言を得て、平成30年5月・8月・11月及び平成31年2月の4回にわたり「DPC（実績要件、機能評価係数Ⅱ）」、「重症度・医療・看護必要度」の分析を行うとともに、院内11の部署と個別ミーティングを実施した。また、幹部職員等を交え、「DPC（実績要件、機能評価係数Ⅱ）」の分析を行い、今後の方向性について議論を行った。 ○ コンサルタントの協力を得て現状分析等を実施したことにより、リハビリテーション病院を除く3病院の入院単価が上昇したことなどから、平成30年度の医業収益が平成29年度より20.4億円の増となった。	4	収支状況の把握・分析を行い収入の確保に向けた取組を進めたこと等により医業収益の増加が図られており、年度計画を上回っているため、「4」と評価した。 医療費個人負担分の未収金について、引き続き、未納者の状況に応じて回収方法を工夫するなどして、収納率の向上を図ること。	4			

中期計画		平成 30 年度		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価				市長による評価		
		年度計画		評価理由等			記号	評価理由・コメント等	記号	
【目標値】病床利用率（単位：%）				【実績】病床利用率（単位：%）						
区分	平成 28 年度 実績	令和 3 年度 目標値	区分	平成 30 年度 目標値	区分	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績		
広島市民病院 (一般病床)	96.1	97.5	広島市民病院 (一般病床)	97.5	広島市民病院 (一般病床)	96.1	96.7	96.4		
安佐市民病院	85.7	90.3	安佐市民病院	90.3	安佐市民病院	85.7	88.5	87.9		
舟入市民病院 (内科、外科)	82.9	85.0	舟入市民病院 (内科、外科)	82.0	舟入市民病院 (内科、外科)	82.9	76.1	76.8		
リハビリテー ション病院	96.5	96.5	リハビリテー ション病院	96.5	リハビリテー ション病院	96.5	95.1	94.4		
※1 病床利用率 = (入院延べ患者数 / 診療日数) ÷ 病床数										
※2 入院延べ患者数は退院日を含む。										
・診療報酬制度に基づく適正な診療、事務処理を徹底し、請求漏れの解消、査定減(診療報酬を支払基金等に請求した際の減額)の縮減を図ります。 ・収入の確保及び公平性の観点から、医療費個人負担分に係る未収金の発生防止に取り組むとともに、回収困難な事案については弁護士法人への回収委託等を行うなど、発生した未収金の早期回収に取り組みます。	・診療報酬制度に基づく適正な診療及び事務処理の徹底	【実績】病床利用率（単位：%）				【実績】病床利用率（単位：%）				
		【実績】病床利用率（単位：%）				【実績】病床利用率（単位：%）				
		区分	平成 30 年度 目標値	区分	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績			
※病床利用率 = (入院延べ患者数 / 診療日数) ÷ 病床数										
※入院延べ患者数は退院日を含む。										
※舟入市民病院の病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率										
※病床利用率 = (入院延べ患者数 / 診療日数) ÷ 病床数										
※入院延べ患者数は退院日を含む。										
※舟入市民病院の病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率										
【診療報酬制度に基づく適正な診療及び事務処理の徹底】										
○ 診療報酬の支払基金等への請求に当たっては、医師及び事務職員による診療の妥当性や算定誤りのチェックを行い、適正な請求に努めた。また、査定資料を医師に情報提供し、請求漏れや査定減の縮減に努めた。										
【医療費個人負担分に係る未収金の発生防止及び早期回収】										
○ 従来から医療費個人負担分に係る未収金の発生防止に取り組むとともに、回収困難な事案については弁護士法人への回収委託等を行うなど、発生した未収金の早期回収に取り組み、収納率は、安佐市民病院及び舟入市民病院で目標を達成することができた。										
【回収困難な事案について弁護士法人への回収委託】										
○ 広島市民病院では、平成 30 年度は、一次委託として新規 5,249 万 242 円の回収を委託し、そのうち 102 万 4,842 円が回収できた。また、二次委託として新規 1,505 万 2,987 円の回収を委託し、そのうち 31 万 7,424 円が回収できた。										
○ 安佐市民病院では、平成 30 年度は、一次委託として新規 243 万 4,977 円の回収を委託し、そのうち 93 万 103 円が回収できた。また、二次委託として新規 93 万 2,520 円の回収を委託し、そのうち 3 万 2,810 円が回収できた。										

中期計画		平成 30 年度		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価	
		年度計画		評価理由等			記号	評価理由・コメント等
【目標値】医療費個人負担分の収納率 (単位: %)		【目標値】医療費個人負担分の収納率 (単位: %)		【実績】医療費個人負担分の収納率 (単位: %)				
区分	平成 28 年度 実績	令和 3 年度 目標値	区分	平成 30 年度 目標値	区分	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績
広島市民病院	96. 6	97. 0	広島市民病院	96. 7	広島市民病院	96. 6	95. 7	95. 3
安佐市民病院	94. 3	95. 5	安佐市民病院	95. 2	安佐市民病院	94. 3	94. 9	97. 4
舟入市民病院	93. 5	95. 0	舟入市民病院	93. 1	舟入市民病院	93. 5	93. 3	95. 1
リハビリテーション病院	96. 8	99. 0	リハビリテーション病院	97. 5	リハビリテーション病院	96. 8	95. 7	96. 8
※現年分収納率と滞納繰越分収納率とを合わせた収納率		※現年分収納率と滞納繰越分収納率とを合わせた収納率		※現年分収納率と滞納繰越分収納率とを合わせた収納率				

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充

中期目標	本市が示した機能分化整備方針を踏まえ、本市と十分に連携を図りながら、安佐市民病院の建替えを進めること。
------	---

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第5 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置 安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充（大項目）				
1 安佐市民病院の建替えと医療機能の拡充（小項目） (1) 基本的な考え方 耐震性の向上と老朽化・狭隘化の解消、高度で先進的な医療機能の拡充等を図るため、安佐市民病院の建替えを進めます。 建替えに当たっては、広島市の機能分化整備方針に基づき、高度で先進的な医療機能、災害拠点病院としての機能及びべき地医療拠点病院としての機能を荒下地区に、日常的に高齢者などの地域住民が受診できる医療機能等を現在の北館に整備します。 (平成30年度の取組) (1) 執行体制の充実及び効率的な業務の推進 ・安佐市民病院整備室に、機械技師を増員 ・設計、工事等の各段階におけるスケジュール、コスト、品質管理等のマネジメントを民間委託するCM（コンストラクションマネジメント）方式を導入しており、限られた人員で業務を推進できる体制を構築することで、執行体制の効率化を図っている。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3		

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>を行います。</p> <p>(2) 整備する場所</p> <p>ア 高度で先進的な医療機能等の主要な医療機能</p> <p>　　広島市安佐北区亀山南一丁目「荒下地区」</p> <p>イ 日常的に高齢者などの地域住民が受診できる医療機能等</p> <p>　　広島市安佐北区可部南二丁目「現在地」</p>	<p>ントを民間委託することによる限られた人員での業務の推進</p> <p>(2) 建替え業務の着実な推進</p> <p>① 荒下地区</p> <p>・実施設計(H30) 事業費 400,000 千円</p> <p>・工事監理等 事業費 147,000 千円</p> <p>② 現在地</p> <p>・現在の北館に整備する病院の医療機能等の検討及び整備計画の策定</p> <p>事業費 17,000 千円</p>	<p>【建替え事業の着実な推進】</p> <p>○ 建替え事業の状況は、次のとおりである。</p> <p>① 荒下地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施設計を完了させ、主要工事の入札・契約を行った。 <p>② 現在地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島市、安佐医師会、法人の3者による「安佐市民病院の北館に整備する病院の準備調整会議」を延べ5回開催し、病院の医療機能、整備計画及び開設に向けた準備体制などについて協議を行った。 ・建物の整備計画についてのとりまとめを終え、平成30年10月に実施設計に着手した。 			
<p>2 荒下地区に整備する病院</p> <p>(1) 担うべき医療の基本的な方向性</p> <p>ア 高度で先進的な医療の拡充</p> <p>　　救命救急センター、ヘリポートの整備等</p> <p>イ 災害拠点病院としての機能の拡充</p> <p>　　免震構造の採用、1階部分に災害傷病者の受入れスペース及び設備の整備、灾害備蓄倉庫の整備等</p> <p>ウ 県北西部地域等の病院支援と患者の受入れの拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の派遣等の支援、研修機能等の充実等 ・県北西部地域の公立病院等との連携強化 <p>(2) 整備概要</p> <p>ア 敷地面積</p> <p>　　約40,000m²</p> <p>イ 建物(病院本体)</p>					

中期計画	平成 30 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			記号	市長による評価	
	年度計画	評価理由等				評価理由・コメント等	記号
<ul style="list-style-type: none"> ・面積 延床面積 約 40,000m² (建築面積 約 15,000m²) ・構造 鉄骨造・鉄筋コンクリート造 ・医療機能 ・病床数 450 床 [うち I C U 8 床、 H C U 19 床] ・診療科 32 診療科 <p>(3) 整備スケジュール</p>							

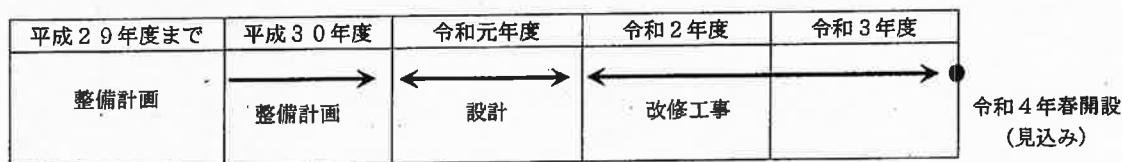


(4) 整備費

(単位: 百万円)

区分	平成 29 年度まで	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	(計)	令和 4 年度	合計
基本計画	20							20
基本設計	152							152
工事監理等	66	147	188	282	270	887	5	958
実施設計		400				400		400
建設費			2,254	8,196	10,040	20,490		20,490
小計	218	547	2,442	8,478	10,310	21,777	5	22,000
土地購入費			1,920			1,920		1,920
医療機器購入費					7,330	7,330		7,330
合計	218	547	4,362	8,478	17,640	31,027	5	31,250
	238	547	4,362	8,478	17,640	31,027	5	31,270
財源	運営費負担金	109	4	4	5	7	20	130
	長期借入金		589	4,354	8,468	17,425	30,786	30,789
	自己財源	129	4	4	5	8	21	151
	補助金（へき地）				200	200		200

中期計画	平成30年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価	
	年度計画	評価理由等		記号	評価理由・コメント等	記号
<p>3 現在の北館に整備する病院</p> <p>(1) 担うべき医療の基本的な方向性 日常的に高齢者などの地域住民が受診できる医療機能の拡充等</p> <p>(2) 整備概要</p> <p>ア 敷地面積 約10,000m²</p> <p>イ 建物（病院部分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積 延床面積 約7,000m² ・構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 <p>ウ 医療機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病床数 77床 [地域包括ケア病床 57床、緩和ケア病床 20床] ・診療科 総合内科 <p>(3) 整備スケジュール</p>						



中期計画	平成 30 年度		地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価				市長による評価		
	年度計画		評価理由等			記号	評価理由・コメント等	記号	
(4) 整備費									
(単位: 百万円)									
整備費	区分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	計			
	整備計画	17				17			
	工事監理等			3	12	15			
	実施設計		41			41			
	建設費			182	735	917			
	合計	17	41	185	747	990			
財源	運営費負担金	17	41	185	747	990			
(5) 現在の北館に整備する病院への支援の基本的な考え方 広島市の支援の下、医療に関する地域支援を行うため、現在の北館に整備する病院への支援を行います。									